

友の価値を過小評価しないこと

テレビのドキュメンタリーでライオンが獲物を狩っている様子をご覧になったことがあるでしょうか。野生動物であるライオンは、最も遅いか、または最も弱いガゼルを見つけ、群れから隔離するのです。獲物であるガゼルが孤立化されると、ライオンの勝利が保証されます。グループの一員であるということは安全であることでもあり、孤独な獲物には、祈りのサポートが無いということです。

この問題はビジネスの分野でも見ることができます。野心的で、突き動かされたように動く人たちは、自身のキャリアや目標を達成するために必要なことは何でも自分一人で実行しようとしています。「孤独なレンジャー」は、周囲の人たちと提携して各個人のスキルや強みを活かそうとするのではなく、目の前に広がる落とし穴に気付かずにただ成功を得ようと追い求めるのです。そして、多くの者たち（特に期待の新星たち）が、効果的で健全に機能しているチームの一員として得る事ができる様々なサポートを得ることなしに、倒れ、燃えつきてしまうのです。

職業面や、個人的、霊的な視点からみても、この賢いライオンのように私たちが孤立化させたいと思っている敵がいます。私たちが一人でいるときに最も弱いことを知っており、そんな私たちが打ち倒そうと狙っているのです。もし自身が危険にさらされているに関わらず、自分のプライドが邪魔をして友人に電話をかけることができないようであれば、それは破滅に向けて一歩近づいているということでもあります。

聖書においても、共に主を見上げて歩む信仰者たちと力を合わせることの重要性が何度も語られています。

数に見いだせる安全性について：プロジェクトであれ問題解決の案件であれ、一人で物事を成し遂げようとするよりも、誰かと一緒に仕事をするのが効果的であるという例はいくつもあります。二頭の馬または雄牛が、一頭の動物が引くよりも何倍もの量を運ぶことができることと同じです。これは、ビジネスやプロの世界においても常に見られることです。「ふたりはひとりよりもまさっている。ふたりが労苦すれば、良い報いがあるからだ。どちらかが倒れるとき、ひとりがその仲間を起こす。倒れても起こす者のいないひとりぼっちの人はかわいそうだ。また、ふたりがいっしょに寝ると暖かいが、ひとりでは、どうして暖かくなろう。もしひとりなら、打ち負かされても、ふたりなら立ち向かえる。三つ擦りの糸は簡単には切れない。」（伝道者の書 4：9-12）。

信頼できる友の価値について：私たちのことを十分に気にかけてくれて、真実を語ってくれる本物の友人が一人居るだけでも良いのです。たとえ耳が痛くなるようなことを言われる場合であったとしてもです。「滅びに至らせる友人たちもあれば、兄弟よりも親密な者もいる。」（箴言 18:24）。

友好的な摩擦から得られる利点について：創造的な意見交換であれ、建設的な批判を受ける場合であれ、私たちが周囲の人と関わる際、時に“火花”が飛ぶことがあります。様々な格言でも述べられている通り、一人の知恵が多くの人々の知恵に勝るということは無いのです。ゆえに、職場で互いを知るという潜在的な利点は計り知れません。「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」（箴言 27:17）。

互いに励まし合うことの重要性について：時には、人生や仕事面において困難や試練に直面し、そのチャレンジに圧倒されてしまいそうになることもあります。ですが、そんな時こそ周囲にサポートを申し出たり、役立つアドバイスや肯定的な声掛けなどを行ってもらえることは、私たちが困難や苦難に対処するにあたって大きな違いをもたらす可能性があります。

るのです。「また、互いに勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。ある人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。」（ヘブル人への手紙 10：24-25）。

私たちが十分に休息し、食事がとれており、精神的にも落ち着き、満足している場合。私たちはつい、全ての問題は一人で処理ができて周りのサポートは必要ないと思ってしまいがちです。ですが、そのような時こそ、最も私たちは脆弱であり、様々な誘惑や外部の脅威に対する警戒心を緩めている可能性があります。そのような時こそ、私たちは警戒し、注意するようにしましょう。そして、空腹を覚えたり、怒りや孤独、または疲れを感じているときは、自分の力を過信し、自分で自給自足できると思わないでください。そのような時こそ、友を探しましょう。あなたを破滅から救うかもしれないのですから。

もっと深めるために：

1. 群れから離れた動物をこっそりと追いかけるライオンを想像してみてください。その情景からどのような考えや感情が思い浮かびますか？

2. 今までに、周囲の人たちから離れたり、孤立化してしまうことで、あなたご自身が「獲物」となったように感じたことはありますか？それはどのような体験でしたか？結果的にどのような苦しみや悪影響がもたらされましたか？

3. 自分一人ですべての仕事を完結しようとする「孤独なレンジャー」的アプローチではなく、「周りの人と一緒に働く」仕事の進め方で最も良い事例はどのようなものがありますか？一人で仕事を完結した場合と周囲と協力して完結した場合とで、結果的にどのような違いが見られたかもご説明ください。

4. 今回皆さんにお伝えした聖書箇所の中で、最もここに留まった箇所、または最も考えさせられた箇所はどこでしょうか？その理由もご説明ください。

参考聖書箇所リストです。参照ください：

出エジプト 4:14-16; 箴言 11:14, 15:22, 20:18; マタイ 10:1-10; マルコ 6:7; ヘブル 3:12-14

英語版 Monday's Mana は[こちら](#)

この発行はリック・ボックス氏によって書かれました。月曜日のマナ®はCBMCより毎週発行しているメールマガジンであり「ビジネスとマーケットプレイスをキリストに」の世界的働きで、利益を求める活動ではなく、超教派で、1930年に創立され、各業界で働いている従業員、又、経営者ヘイエス・キリストを宣べ伝える事を目的としています。